

夏休みに入り、大分県内は、太陽が照り付けた7月から一転し、8月は雨や曇りのぐずついた天気が続きました。

夏休み 泣き笑い



夏休みに入り、大分県内は、太陽が照り付けた7月から一転し、8月は雨や曇りのぐずついた天気が続いている。今月1、2週目の週末には連続して台風が「直撃」し、レジャーシートに影響も。屋内型施設がぎわう一方、屋外型施設は客数が伸び悩み、「天気はかりはどうしようもない」と嘆き節が聞かれる。今後も1週間ほどはあいにくの天気となる見込みで、夏らしい青空が待ち遠しい。

日本気象協会大分事業所によると、7月下旬から8月上旬にかけ、南からの暖かく湿った気流や台風の影響で不安定な天気となつた。「今月22日ころまでは多くの人でぎわう屋内型施設の「うみたまご」=15日、大分市

県内レジャー施設

活況の屋内 屋外は苦戦

①8月1日から15日までの15日間の大分市で、雨の降らなかつた日は何日ありますか。

夏休みの天気 (大分市)						
		1 のち		7月19日(土) 一時または 時々		
20(日)	21(月)	22(火)	23(水)	24(木)	25(金)	26
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
27	28	29	30	31	8月1日	2
晴	晴	晴	雨	雨	雨	雨
3	4	5	6	7	8	9
雨	雨	雨	雨	晴	雨	雨
10	11	12	13	14	15	16
雨	雨	雨	雨	雨	雨	晴

*午前6時～午後6時まで。日照時間が7時間以上の場合は晴れとする。

23日から1週間程度は一時的に天気が回復する見込み。夏休み最後の外出のチャンスになるかもと話す。晴れの少ない夏休みに来場者が増えているのが屋内型施設だ。別府市の杉乃井ホテル「アクアビーム」は12日までの1日平均来場者数が昨年の約2千人から約3千人に増加。福岡県内の会社員安藤敏朗さん(35)は「川に行く予定を急きょ変更した。来週も海に行く計画だが、また変更になるかも」と心配そう。

停滞する秋雨前線の影響で、雲りや雨が多くなりそう。同期に比べると約半分に落ち込んだものの、7月が昨年を上回った分、ほぼ平年並みを維持できつつ、屋外型施設は苦戦する。例年、8月には12万～13万人が訪れる別府市の城島高原パーク。今月1日～10日間の来場者数は前年(8月2日～11日)比75%にじて減る。広報担当者は「このままだと10万人を超えるかもしれない。盆以降は来場者が増える傾向があるので挽回したい」と意気込む。

大分市の田ノ浦ビーチは8月1日～13日までの来園者数が前年同期から約5千人書き入れ時どなる盆前500人減の約1万3千人の週末に台風が接近するなどし、今年は遊泳禁止になつた日も数日あった。

「8月の客数は昨年の半分程度」と話すのは同市のフォーラス屋上のピアガーデン「あもーれHeike」の「あもーれHeike」。約350人を収容できるが、雨が降るとテント部分だけでの営業になるため150人ほどしか座れないといふ。「盆を過ぎると客数の伸びが小さいので心配」とため息をついた。

(2014年8月16日夕刊1面)

②記事中の施設を、ぐずついた天気での「泣き」と「笑い」に分けてみよう。

③ほかにどんな施設が「泣き」「笑い」したと思いますか。理由も考えてみよう。